

平成29年度教育活動等に対する学校評価書(自己評価結果書)

学校法人二葉学園 葛飾二葉幼稚園

1. 本園の教育目標

「自立と思いやりの心」

●自ら考え、自ら課題にぶつかり、自ら解決できる子

遊びや保育を通して、知的好奇心や探究心、興味、関心、意欲を引き出し、一人一人の段階に合わせて生きる力に結びつける。

●自らを律しつつ、他者を思いやれる子

友だちが好き、先生が好き、幼稚園が好きという思いを通して、暖かい風土や雰囲気の中で他者を好きになることで、自分を律しつつ、一人でも遊べ、みんなとでも遊べることを身につけ、さまざまな場面でも他者を思いやり、自分の意思を選択できる力に結びつける。

●健康で、がまん強いたくましい子

物の豊かさが心や身体に及ぼす影響を踏まえ、幼児期に必要な運動による身体能力の向上、心の発達、神経機能の発達を目指し、心身ともに健康な子どもに育てる

2. 本年度の重点目標

本園は、平成27年4月に施行された子ども子育て支援新制度において、幼保連携型認定こども園に移行し、3年目を迎えた。28年度に引き続き、今まで培ってきた本園の幼児教育の重要性を再認識するとともに、保育の必要な子ども、家庭への保育・子育て支援についても、認識を深めるとともに実行する。

また、組織におけるマネジメントを実行するため、副主任、各担当リーダー職を創設し、より組織力の向上務める。各研修も多く取り入れの姿を実践する。

第三者評価の受信により、より質の高いこども園運営を目指す。

地域の保育士・幼稚園教諭養成校(大学・短期大学等)とも連絡を取り、連携の在り方について検討する。

以上を最重要課題とする。

3. 教職員による、評価項目に対する自己評価(平成29年2月下旬～3月上旬実施)

評価項目	教職員自己評価	自己評価結果
① 保育の計画性	子ども園となり3年目にして保育の流れが徐々に安定してきたことで、記録用紙、記録方法の見直しをし、計画から保育後の反省考察まで一貫して行うよう意識するようになった。特に、2号認定児については、園生活の中での経験や体験等で充実したカリキュラムが作成され、それを実践することができた。また、乳児クラスから幼児クラスへ移行で、その連携のカリキュラムも見直しも行った。	B
② 保育の在り方、乳・幼児への対応	『児童憲章』や『二葉幼稚園の心得』を各学期の始めに保育教諭全員で唱和し、子どもの人権や尊厳を尊重することをより意識しながら保育を行った。また、昨年に引き続き、子どもが主体的に遊べるよう環境設定を重視し、安心安全に遊べるようにした。	B

③ 教師としての資質、能力・良識・適正	処遇改善、キャリアアップの取り組みとして、副主任、専門リーダー、職務分野別リーダーなどの役職を設け、組織人・教育保育の専門家として、個々がリーダーシップを発揮することの必要性を考えられるようにした。また、『キャリアアップ管理表』を用い、自己評価、他者評価をし、課題や目標を明確化し、自己が成長するための自己分析を行った。	B
④ 保護者への対応	保護者が抱えている悩みや不安を見逃さないよう、日ごろからのコミュニケーションを大切にし、二葉幼稚園の教育保育の在り方をより理解していただくために『二葉通信』の発行回数を増やしたり、毎月の園便りを充実させたりした。また、連絡すべきことは事後ではなく、事前にお知らせするようにしたり、外国人対応もより丁寧に行ったりした。保育必要時間の重要性を伝えてきてはいるが、それに関しては引き続きの課題である。	B
⑤ 地域の自然や社会とのかかわり	園庭の環境を充実させただけでなく、園外保育も充実させたことで、園以外の自然に触れる経験ができ、その後の活動にも活かすことができた。 地域（町会）活動においては、引き続き、盆踊りやお神輿に積極的に参加し地域の方や文化に触れられる経験を重ねることができた。また、その他の交流会やイベントでは、園長や副園長だけでなく、職員も参加し交流を深めた。	A
⑥ 子育て支援	さくらんぼクラス、すももクラス、りんご広場、パパママデー（3号認定児保護者懇親会）の場において、子育て支援の充実化ができた。子育て講演会では、在園児の保護者だけでなく、外部からの参加者も増加した。今後は、ホームページの充実化をし、より多くの方に子育ての楽しさや喜びを伝えたり、毎月のイベントに来ていただいたりしてもらえるようにしていきたい。	B
⑦ 研修	昨年に引き続き、職員がそれぞれの専門性、経験に応じたスキルアップができるよう、園内研修だけではなく積極的に外部研修に参加させた。研修後には園内においてフィードバックすることで、参加していない職員のキャリアアップにつなげた。新教育要領への移行に関する研修も、内外問わず充実した研修を取り入れた。 また、昨年、東京消防庁から優良事業所の認定を受け、その意識を持続するため、今年度も救命救急普及員になっていない職員12名が救命救急の講習を受講した。	A

※自己評価結果の表示方法

A…十分達成された

B…達成された

C…取り組んだが達成が十分ではない

D…取り組みが不十分であった

4. 今年度の総合的な園評価と次年度への課題

第三者評価機関が入ったことにより、様々な点の見直しや自己評価、課題を再認識でき、組織全体だけでなく職員個人も見直す良いきっかけとなった。H30年度は、新保育要領への移行もあり、保育業界への更なる理解、キャリアアップを目指していきたい。

5. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。